

平成22年度 第1回 成田市生涯学習推進協議会 議事録

1 開催日時

平成22年5月28日（金） 午後2時～午後4時

2 開催場所

成田市役所 行政棟3階 第2応接室

3 出席者

(委員)

林会長、甲斐副会長、阿部委員、新井委員、伊藤委員、大見川委員、小川委員、岸野委員、品田委員、時田委員、野平委員、野村委員、正岡委員、宮本委員、吉田委員、湯浅委員

(事務局)

遠藤生涯学習課長、堀越生涯学習課主幹、吉岡生涯学習課副主幹、桧垣生涯スポーツ課長、小川生涯スポーツ課主査、窪田生涯スポーツ課副主査、葛生公民館主幹、鏑木図書館副主幹
ちばぎん総合研究所 平田専務取締役、淡路主任研究員、観音寺研究員

4 議事

- (1) 共通事項について
- (2) 生涯学習推進計画の骨子について
- (3) 生涯スポーツマスタープランの骨子について
- (4) その他

5 議事

(1) 共通事項について

全体スケジュールについて、生涯学習課 吉岡副主幹より説明

(2) 生涯学習推進計画の骨子について

生涯学習課 吉岡副主幹より、社会環境の変化、生涯学習に関して取り巻く状況の変化、成田市の現状などについて説明し、今回の推進計画見直しの趣旨を説明。

資料についての具体的説明はちばぎん総合研究所の観音寺が行う。①基本理念、②基本方針、③施策の体系、④今後の方向性の議題を一通り事務局の提案を説明。その後、各議題について委員より意見交換を行う。

① 基本理念について

阿部委員：基本理念を継続するのは賛成。理念が変わるといのはおかしいので、同じ理念

のもとで続けるべきだと考える。

湯浅委員：10年前に立てた理念だが、内容は古いものではないのでこれでいいと思う。

品田委員：国際市民の定義とはいったい何なのか。何をもちて国際市民というか確認したい。

吉岡副主幹：国際空港があること、たくさんの外国人を迎えるということから国際市民と言っている。また観光都市に住む市民という面から国際市民としている。

観音寺：成田という市の最大の特徴として成田空港があるので、基本理念の中に国際市民という言葉を入れることが望ましいと考える。

会長より、委員全員に、基本理念は「ゆたかな自然と歴史のもと、国際市民を育むまち」とすることを確認、承諾される。

② 基本方針について

阿部委員：国際市民と基本理念でうたっているのも、更に重ねて基本理念をいう必要はないと思う。「だれもが、いろいろな、みんな」では生かしながら、サブタイトルでは社会潮流を入れていくことで、生涯学習の意味合いを表している。事務局提案に賛成。

野村委員：「だれもが、みんな、いろいろな」の順番の方がいいのではないかと。

阿部委員：サブタイトルを見ると、この順番に意味合いがある。学べる、学びあえる、学んだことを活かせるという順番を活かすためには、この順番が大事である。

吉田委員：順番も含めて皆さんの意見に賛成。

阿部委員：頭文字を語呂合わせで「な・り・た」にすると覚えやすいのでいいのではないかと。簡単に浮かばないので、これは理想ですが・・・

会長より、委員全員に基本方針を「・だれもが主役 ～市民が主体的に学べるまちづくり～ ・いろいろな学習 ～市民が相互に学びあえるまちづくり～ ・みんなで協働 ～市民が学んだことを活かせるまちづくり～」とすることを確認、承諾される。

③ 施策の体系について

湯浅委員：国でも事業仕分けなど行われているが、無駄なものは整理するというのは賛成。

宮本委員：施策の重なりなどの意味がよくわからない。その何が悪いのか。

観音寺：同じ事業なのに違う施策に何度も出てきているものはわかりづらいので、整理して、事業の目的を明確にしたほうがよいと考える。

淡路：基本理念にもとづき、どういったことをやるのかという施策、施策の方向性があり、それを具体的に実施するのが事業である。再掲されている事業は、その事業がもつ目的、意味合いが明確ではなくなってしまう。時間の経過と共に行政運営は新しい事業を展開してきたため、昔作った体系と事業が結び付けにくくなっている。これを今回の改訂にあたり事業体系を整理したい。

会長より委員全員に、施策の体系を整理していく方向について確認、承諾される。

④ 今後の方向性について

観音寺より、施策の体系の中では、重点施策、数値目標を掲げる方向で検討している。この方向性についてご同意いただきたい旨説明。

林会長 : 数値目標を掲げることは、他の市ではないことであり、成田市は先見の明があると思う。評価がしやすくなり、市民の理解も得られることもあり、数値目標を掲げることは大事である。

会長より、委員全員に、重点施策、数値目標を掲げていく方向性について確認、承諾される。

(3) 生涯スポーツマスタープラン骨子について

生涯スポーツ課 小川主査より、スポーツを取り巻く状況の変化、成田市の健康都市宣言の内容などを説明し、今回のマスタープラン見直しの趣旨を説明。

資料についての具体的説明はちばぎん総合研究所の観音寺が行う。①基本理念、②基本方針、③施策の体系、④今後の方向性の議題を一通り事務局の提案を説明。その後、各議題について委員より意見交換を行う。

① 基本理念について

小川委員 : 事務局推薦案の新しい基本理念はとてもいいと思う。3つの検討案には「なりた」が入っているが、これはいらわないと思うので推薦案でいいと思う。

甲斐副会長 : 事務局案でいいと思う。

林会長 : 俳句のようで、覚えやすいし言いやすいのでいいと思う。

阿部委員 : 「個性」という言葉は若者向けのような気がするので、変更していいと思う。「いきいき」は他の市でもよく使われている気がするが、それは仕方ないと思う。

会長より、委員全員に、基本理念は「スポーツでいきいき健康まちづくり」とすることを確認、承諾される。

② 基本方針について

小川委員 : 「スポーツで健康になる」というのは断定的すぎるのではないか。

阿部委員 : 「健康になろう」くらいの方がいいのではないか。

小川主査 : 「楽しむ」「ふれあう」が動詞で終わっているので、それにあわせて「健康になる」という表現にまとめている。

岸野委員 : もう少しやわらかい表現のほうがいい。

時田委員 : 基本方針に具体性がない。ただし体系図を見ると、基本方針につながる具体的な説明があったので、これならいいと納得した。

小川主査 : いろんな意味を取り込めるように意図的に抽象的にした。「築く」という言葉にもまちづくりや競技力の向上などいろいろな意味を込めているのであいまい

な表現を提案している。

林会長 : 含みをもたせて、いろいろな風に考えられるのはいいのではないか。

吉田委員 : 動詞で終わらせるのは、簡潔でありインパクトがあっている。もっと簡潔にして「スポーツ」自体も抜いてしまってもいいと思う。

野村委員 : 同じくすっきりさせるために「スポーツ」はなしにしてもいいと思う。

淡路 : 委員の方の意見をもとに再度事務局で検討することとしたい。

会長より、委員全員に基本方針については事務局で再度検討する方向性を確認、承諾される。

③ 施策の体系について

小川委員 : 「スポーツ団体育成事業」はもらう方からすると非常にありがたい事業である。今の体制のままで予算化してもらおうとありがたい。ハードの面で、統合になる小学校等は市民の広場として大いに活用できるので、整備する計画を検討してもらいたい。

観音寺 : 事業の統合については、財源的なものを削ろうとするものではなく、事業の目的を明確化する意図で行うものです。

野平委員 : ハード面については、もっと整備・拡充を図り、重要なところには適正な予算配分をしてもらいたい。

林会長 : 整理できるものは整理していくのでいいのではないか？

甲斐副会長 : 施設は当然整備・拡充が必要だが、維持コストなど様々な問題もある。これは難しい問題だが、市民ニーズが強いので一生懸命やっていく必要がある。

会長より、委員全員に施策の体系を整理していく方向について確認、承諾される。

④ 今後の方向性について

小川主査より施策の体系の中で、重点施策、数値目標を掲げる方向で検討している。この方向性についてご同意いただきたい旨説明。

会長より、委員全員に、重点施策、数値目標を掲げていく方向性について確認、承諾される。

(4) その他

小川主査より、前回の推進協議会で保留とした質問について成田市側の回答を説明。

吉岡副主幹より、次回の推進協議会の予定等について説明

6 傍聴

傍聴者 0 人 (うち記者 0 人)

7 次回開催予定

平成 22 年 8 月

以 上